

よなはーよなみ

又うちすてゝ かきすてゝ すらより(うち解でる、かき解でる稍より)
御半(半のように早い船の意)という船の進水を謡ったオモロである。

よなはる よなはる(与那原町)
「おもろさうし」に見える地名。与那原鎮町に当たる。「おもろさうし」巻22の「知念久高行幸之御時おもろ」の1つに「与那原村福福親雲上宿にて御規式の御時」と題された1首があり(巻22-23, No.1530)。

よなはるのくに(与那原の国)
「よなはるのおきて(与那原掟)」が見える。巻11-93, No.648には次のように謡われている。一こいしのかくに いけいけし(こいしの国いけいけし)

又まちらすかくに いけいけし(まちらすの国いけいけし)
又よなはるのくに いけいけし(与那原の国いけいけし)
又とゝろきのくに いけいけし(轟きの国いけいけし)

又五たけのくに いけいけし(五嶽の国いけいけし)
又七たけのくに いけいけし(七嶽の国いけいけし)
又めつらしや るくに いけいけし(珍しい良い国いけいけし)
又さくしや るくに いけいけし(嬉しい良い国いけいけし)

「いけいけし」は、にぎにぎしい、活気ある、の意。「こいし」(まちらす)神女の守護し支配する国を讚美したもので、大意は与那原の国(轟きの国)は多くの御嶽に守られている国であり、珍しい嬉しいよい国で、島や国を引き連れている国であり、にぎにぎしいことだ、である。
よなばる 与那原(与那原町)
方言ではユナバルという。沖縄本島南部の東海岸に位置し、中城湾に面する。地名は、海岸の砂原を意味する方言のヨナあるいはユナによる。「おもろさうし」には「よなはる」と見える。集落発祥の地は、坪所の竿又増付近と伝える(沖縄風土記全集4)。尚巴志王(1422~39在位)が佐敷小按司と呼ばれた頃、与那原港の異国商船から鉄を買い、農具などを作って農民に与えたといわれる(中山世譜)。雨乞森と呼ばれる標高132.6mの山は、雨乞の祈願を行ったところ。
〔近世〕与那原村 王府時代~明治41年の村名。島尻方、はじめ島添大里間切、のち大里間切のうち。「高究帳」に島添大里間切与那原村と見え、高頭480石余うち田325石余(永代荒地25石余を含む)・畑155石余。「由來記」では大里間切与那原村と見える。康熙6年(1667)に地頭となった駱姓3世春明は、与那原村・

上与那原村・大見武村の地頭を兼任した(駱姓大名家譜/那覇市史資料1-5)。大里間切の番所ははじめ南風原村に置かれていたが、乾隆元年(1736)与那原村に移された(球陽尚歌王24年条)。与那原村は古くから与那原港を中心に太平洋に面する交通・交易の要衝地として知られる。嘉慶8年(1803)久志間切嘉陽村・安部村の村民が、公用の櫓木を納めるために入港している記事が見え(球陽尚成王元年条)。さらに聞得大君の就任式である御新下りの際の板屋(御殿山)などを建設するための材木も入港している(大里村史)。乾隆5年には海面が3丈6尺も上がるという潮水異常が発生した(球陽尚穆王40年条)。港の繁栄の反面、海難の記事が多くある。咸豊5年(1855)には中国福建省へ漂流し、同治11年(1872)にはベトナムへ漂流が2件(中山世譜)、さらに光緒元年(1875)にも長崎へ漂着するなどの事故があった(球陽附卷尚泰王28年条)。村の拝所としては浜ノ御殿・オヤガワ・アキリ嶽・友盛ノ嶽御イビ、与那原・上与那原両村の上与那原ノ嶽があり、いずれも与那原ノロの崇べ所(由來記)。オヤガワは、聞得大君の御新下りの際にお水撫でが行われる重要な拝所で、「御新下日記」に記された「道くわいな意趣」にも親川とある。「道くわいな意趣」は、御新下りの時の、首里から斎場御嶽までの道行きを謡ったもので、この地のものと思われる地名はほかに与那古浜・なかますじ・すもくずいなどがある(キューナ28/歌謡大成I)。友盛ノ嶽御イビは、古く久高島へ渡航中に日本へ漂流した聞得大君が、与那原村で一生を終え、その骨を祀ったものとされている(同前)。明治12年沖縄県、同29年島尻郡に所属。古島・運玉の屋敷が形成された(各町村字並屋取調)。明治15年に報告された廃藩置県以前のサトウキビ畑1万5,029坪・出砂糖高1万5,028斤余(地方経済史料10)。同31年9月砂糖検査所設置(県史16)。同36年大見武村を編入。戸数・人口は、明治13年499・2,462(男1,196・女1,266)、同36年785・4,067(男2,035・女2,032)うち土族447・2,368(県史20)。両年次ともに大里間切中最大の戸口で、特に明治36年は間切のほぼ3分の1を占めるが、これは古島・運玉などに屋敷が形成されたことに加えて、大見武村を編入したことによる。明治36年の民有地総別別243町余うち田8反余・畑187町余・宅地15町余・山林2町余・原野35町余(同前)。同41年大里村の字となる。

- 〔近代〕与那原町 昭和24年~現在の島尻郡の自治体名。大里村から分離した板良敷嶺・与那原・上与那原の3字をもって成立。11行政区を設定。役場は与那原に設置、のち上与那原に移転。世帯・人口は、昭和25年1,710・6,696、同45年2,178・9,639、同52年3,045・1万2,400。
〔近代〕与那原 明治41年~現在の字名。はじめ大里村、昭和24年からは与那原町の字。与那原港を控える交通の要衝地として活気を帯びてきた地域。大正期~昭和初期山原船が出入りしていた頃は、材木商・新炭商などが10数軒店を連れ、市場も形成され、活気を呈していた(沖縄風土記全集4)。大正3年6月の新聞記事によれば、戸数900余・人口9,000余で、その半数が農業に従事していた。しかし作付反別は小さかつ

よなはーよなみ

乗合馬車・荷馬車・人力車・荷車などを副業としたため、県営軽便鉄道の開通は死活問題であった(県史17)。軽便鉄道は、大正3年那覇~与那原間に開通した。さらに、美里村泡瀬までの馬車軌道が敷設され、また島尻方面へは客馬車が連絡していた(沖縄風土記全集4)。同15年8月行政区中島区の民家か縄風土記全集4)。同15年8月行政区中島区の民家か縄風土記全集4)。同15年8月行政区中島区の民家か縄風土記全集4)。同15年8月行政区中島区の民家か縄風土記全集4)。



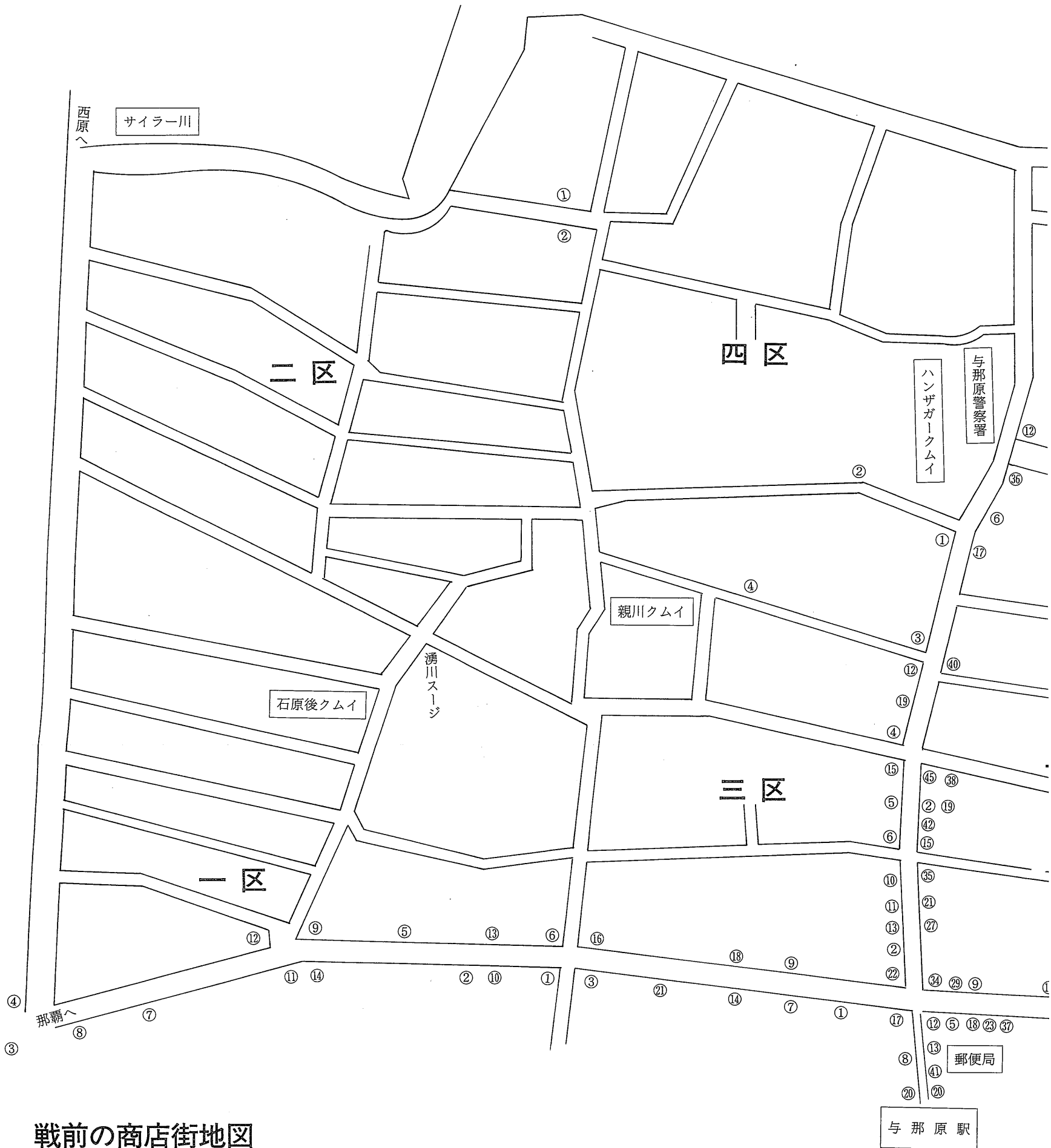
物量戦がしのばれる薬葉の山(昭和20年6月)

よなはわん 与那覇湾(下地町・平良市)
平良市の西部にある湾。方言ではユナパワンという。「ベリ-訪問記」の海図に見えるジャンク湾(Junk Bay)は与那覇湾のことと思われる。湾口の幅約1.7km・奥行き約3.7km・最大幅約2kmの北西方向に湾口を開いた湾。西側は、先端部が北方向にのびた西浜岬岬によって囲まれている。湾奥の南西部を除いて全体的に出入りの少ない海岸線で、北岸は東西方向に0.8km、東側は断層性の直線状の海岸線が北西から南東方向に3.3km程あり、西浜岬以南は半円状の湾形をなす。北岸、東岸および西岸の一部には、海岸の旧波食地形のノッチも見られる。また湾岸の一部にはマングローブも分布する。湾口や湾内には、標高数m以下の小島がいくつもある。湾内は、最深部でも4~5m前後と浅く、全体的に東岸寄りに水深が深く、西海岸に向かって浅くなる。底質は、湾奥の泥質域を除いて砂が中心で、サンゴ礁の発達はよくない。湾内には、通称ウミブドウといわれるイワダツ科の海藻が繁殖しており、魚介類も豊富である。湾の北および東側は、多孔隙の第四紀更新世琉球石灰岩からなり、北東方向に緩やかに高度を増す標高10m以上の台地である。南側は、新第三紀鮮新世の島尻層群泥岩からなる標高10m以下の波状地形である。西側は、大半が標高5~6m以下の低平な地形で、南半が琉球石灰岩の風化土壌である島尻マージからなり、北半には砂嘴部分が形成される。北岸には平良市に属する久松、東岸には喜佐真御嶽のある下地町川満、南岸には下地町役場のある上地、南西岸には与那覇の各集落がある。久松は半島半湾、ほかは農業中心の集落である。南岸の通称カナバマ(加那浜)には、16世紀初め仲宗根豊見親が川満大殿に命じて造らせた長さ約620m・幅2.4m・

高さ1.8mの海中道路地下橋道が築かれている。工事の状況を詠んだ「下地橋道積上げのヤグ」や「加那浜橋積為申由候其時之あやこ」という歌も伝わる(雍正旧記/平良市史3)。また湾の南東部に流入する咲田川下流には、下地橋道とともに架橋されたともいわれる県史跡の池田缸がある。南岸一帯は、第2次大戦直後までマラリアの発生地であった。与那覇集落北の遠浅海岸サニツ浜では、旧暦3月3日(サニツ)に、農耕馬による競馬が行われていたが、馬の減少によりオートバイレースにかわり、現在ではそれも行われていない。上地集落東方0.7kmの湾岸で大正10年に操業を開始した製糖工場は、宮古地方で最初の近代的な製糖工場で、宮古地方の農業に大きな影響を及ぼした。湾の東側約5分の3を締め切って、湧出する地下水と地表水を貯水し、灌漑用水として利用しようとする与那覇淡水湖化計画もある。また湾岸には干潟が発達し、シギ類を中心とした野鳥の集団飛来地でもあり、昭和56年には県指定の鳥獣保護区となった。約2.1km南東には、入江湾(嘉手刈入江)がある。

よなみね よなみね(佐敷町)
「おもろさうし」に見える地名。佐敷町佐敷の小字与那嶺原で、近世の佐敷間切与那嶺村に当たる。関連オモロは2首で、その1つ巻19-14, No.1294には次のように謡われている。
よなみねの大や(与那嶺の大親は)
あやひよとり あすばち(綾鴨を遊ばして)
いみやからと(今からこそ)
いみぎや まさる(土地の靈気が勝る)
又なわしろの大や(昔代の親は)
あや(綾鴨を遊ばして、今からこそ土地の靈気が勝る)

「よなみねの大や」は、オモロの原注に「昔代の親事なり」とあり、「此人佐敷小按司の御父なり」と記されることから、尚巴志王(1422~39在位)の父、尚思紹のことである。このオモロは与那嶺の大親を讃美したもので、巻19-13, No.1293には、「与那嶺の大親/竹つばに造ておちへ/按司親いぎや/島討ちする矢柄(与那嶺の大親は竹つばを造ておいて按司親いぎや島討ちする矢柄ぞ)」と見える。
よなみね 与那嶺(今帰仁村)
沖縄本島北部、本部半島北部の海岸台地上に位置する。方言ではユナミという。「ユナ」「ユナ」「ヨナ」などはいずれも海岸地を指す言葉であることから、集落もはじめは海岸に形成されたと思われる。沖縄考古学編年V期の東長浜原遺跡、前IV・V期の西長浜原遺跡、前IV期の仏ん当洞穴遺跡、後期の仏ん当貝塚がある。
〔近世〕与那嶺村 王府時代~明治41年の村名。国頭総方今帰仁領間切のうち。「高究帳」には、よなみね村と見え、諸喜田村と併記されて高頭228石余うち田91石余・畑137石余。咸豊8年(1858)山敷懋倅により、てらく山8,000坪が4年間開墾地作職免となった(地方経済史料9)。同治2年(1863)与那嶺村の仕明田を無断で畑方に変更したため、耕作当らが科金を課せられていた(同前)。主集落は、腰當の森を後背にしてではなく、海岸台地の南端に形成されている。これは、サトウキビ作の振興を目的として海岸台地が開



戦前の商店街地図

<p>一区 ①阿嘉商店 ②上原自転車 ③大城蹄鉄 ④大城馬車製作店 ⑤金城理髪店 ⑥喜舎場商店 ⑦識名自転車店 ⑧新里自転車 ⑨津波古商店 ⑩仲嶺薬店 ⑪宮平雑貨店 ⑫屋比久木工所 ⑬山内牛乳店 ⑭湧稲国商店</p>	<p>二区 ①大城牛乳店 ②屋比久商店</p>	<p>三区 ①安谷屋湯屋 ②新垣理髪店 ③伊良波位牌店 ④一貫屋 ⑤上原廣代書 ⑥嘉手刈理髪店 (後に大湾写真館) ⑦神谷小間物店 ⑧呉屋針灸 ⑨呉屋商店 ⑩潮平呉服店 ⑪新里はきもの店 ⑫瀬底菓子店 ⑬当山の酒屋 ⑭仲村渠菓子店 ⑮堀田衣料店 ⑯宮平雑貨店 ⑰山内理髪店 ⑱屋比久医院 ⑲屋比久はきもの店 ⑳安田自動車 ㉑与儀衣料品店 ㉒吉野薬店 (以前は新垣薬店)</p>	<p>四区 ①翁長電気店 ②照屋医院 ③登記書 (後上原医院) ④屋比久雑貨店</p>	<p>五区 ①新垣酒店 ②屋牛乳店 ③屋 ④新川商 ⑤稲国酒屋 ⑥店 ⑦上原飲 ⑧大城染屋 ⑨もの店 ⑩典 ⑪門田歯科 ⑫屋 ⑬崎間ま ⑭店 ⑮さおい ⑯店 ⑰瑞慶覧 ⑱底菓子店 (後い ⑲髪店 ⑳田原 ㉑知念商店 ㉒食店 ㉓仲泊 ㉔尾次理髪店 ㉕旅館 ㉖真境 ㉗宮城自動車 ㉘城醬油店 ㉙醬油) ㉚与 ㉛貨店 ㉜与那 ㉝吉田医院</p>
--	-------------------------	--	---	---



<p>垣理髪店 ③伊良屋 ⑤上原廣代書に大湾写真館 ⑦屋針灸 ⑨呉屋商 ⑪新里はきもの店の酒屋 ⑬仲村料店 ⑮宮平雑貨 ⑯屋比久医院 ⑰安田自動車 ⑱野薬店(以前は新</p>	<p>四区 ①翁長電気店 ②照屋医院 ③登記書(後上原医院) ④屋比久雑貨店</p>	<p>五区 ①新垣酒店 ②新垣勇政代書 ③安谷屋牛乳店 ④安谷屋商店 ⑤油屋そば屋 ⑥新川商店 ⑦新垣のめしや ⑧稲国酒屋 ⑨伊集飲食店 ⑩上江洲商店 ⑪上原飲食店 ⑫大城そば屋 ⑬大城染屋 ⑭大城雑貨店 ⑮大城はきもの店 ⑯奥浜商店 ⑰奥間菓子店 ⑱門田歯科 ⑲儀武商店 ⑳桑江そば屋 ㉑崎間まんじゅう屋 ㉒崎山金物店 ㉓さぶいち食堂 ㉔謝敷つけもの店 ㉕瑞慶覧商店 ㉖末広旅館 ㉗瀬底菓子店(後に山岡洋服店) ㉘惣慶理髪店 ㉙田尻裁縫店 ㉚玉城時計店 ㉛知念商店 ㉜徳村古着店 ㉝富田飲食店 ㉞仲泊商店 ㉟仲座薬店 ㊱仲尾次理髪店 ㊲仲宗根理髪店 ㊳二葉旅館 ㊴真境名商店 ㊵松村代書 ㊶宮城自動車 ㊷宮平はきもの店 ㊸宮城醤油店 ㊹森山醤油店(以前は花城醤油) ㊺与那嶺雑貨店 ㊻与那嶺雑貨店 ㊼与那嶺理髪店 ㊽与那原劇場 ㊾吉田医院 ㊿山内商店</p>	<p>六区 ①安谷屋与由商店 ②安谷屋与吉商店 ③新川菓子屋 ④喜屋武商店 ⑤桑江商店 ⑥城間商店 ⑦城間理髪店 ⑧城間湯屋 ⑨嵩原商店 ⑩嵩原医院 ⑪富川商店 ⑫仲本医院(後に湊川医院) ⑬西銘商店 ⑭堀川商店 ⑮真境名商店 ⑯宮平商店(二男) ⑰宮平商店(三男) ⑱山下海産物店 ⑲屋直醤油店</p>	<p>七区 ①旭亭(料亭) ②天久フトン店 ③昭和湯 ④平良書店 ⑤月見亭 ⑥名はきもの店 ⑦比嘉家(料亭) ⑧宮城雑貨</p>
---	--	--	--	--

海

与那原市場

交番所
警察署長官舎

六区

十区

八区

阿知利クムイ

宗ノ増

照屋クムイ

七区

九区

佐敷へ

垣勇政代書 ③安谷屋商店 ⑤油屋そば ⑦新垣のめしや ⑧次食店 ⑩上江洲商 ⑫大城そば屋 ⑬雑貨店 ⑮大城はき店 ⑰奥間菓子店 武商店 ⑲桑江そば ⑳う屋 ㉑崎山金物 ㉒謝敷つけもの ㉓未広旅館 ㉔瀬 (洋服店) ㉕惣慶理 店 ㉖玉城時計店 寸古着店 ㉗富田飲 ㉘仲座薬店 ㉙仲 宗根理髪店 ㉚二葉 店 ㉛松村代書 ㉜ 平はきもの店 ㉝宮 醬油店(以前は花城 雑貨店 ㉞与那嶺 雑貨店 ㉟与那原劇場 内商店	六区 ①安谷屋与由商店 ②安谷屋与吉商店 ③新川菓子屋 ④喜屋武商店 ⑤桑江 商店 ⑥城間商店 ⑦城間理髪店 ⑧ 城間湯屋 ⑨高原商店 ⑩高原医院 ⑪富川商店 ⑫仲本医院(後に湊川医 院) ⑬西銘商店 ⑭堀川商店 ⑮真 境名商店 ⑯宮平商店(二男) ⑰宮平 商店(三男) ⑱山下海産物店 ⑲屋宜 醬油店	七区 ①旭亭(料亭) ②天久雜貨店 ③伊村 フトン店 ④昭和湯 ⑤大正亭(料亭) ⑥平良書店 ⑦月見亭(料亭) ⑧照喜 名はきもの店 ⑨比嘉理髪店 ⑩松乃 家(料亭) ⑪宮城雜貨店 ⑫吉田齒科	八区 ①新垣庸一商店 ②池宮城商店(お茶 屋) ③儀武菓子店 ④津嘉山酒屋 ⑤富名腰菓子店	九区 ①参秀亭(料亭) ②梅乃屋(料亭) ③後の儀武(料亭) ④西平小(料亭) ⑤福地小(料亭) ⑥楽花園(料亭)
--	---	--	---	---